

核兵器の使用も保有も「倫理に反する」



カトリック広島司教区司教と大平さんが「響きあう懇談」

12月8日、大平喜信前衆議院議員は広島市の世界平和記念聖堂を訪れ、カトリック広島司教区の白浜満司教と懇談。核兵器禁止条約が来年1月に発行することをともに喜びあいました。

懇談では白浜司教から昨年11月、被爆地広島を訪問したフランシスコ教皇（教皇の訪問は38年ぶり）が「核兵器の使用も保有も人間としての倫理に反する」と述べたことなどを紹介しながら、核兵器廃絶めざすための宗教者としての役割と決意が語られました。

大平さんは、2017年7月に条約を採択した国連会議に参加したこと、フランシスコ教皇の広島での訴えの全文を「赤旗」が掲載したこと、今年1月の第28回党大会で志位和夫委員長がローマ教皇の長崎と広島での発言を強く歓迎すると述べたことを紹介しました。

懇談は、核兵器廃絶のプロセスにまで及び、深く響きあう懇談と

なりました。（写真は、懇談の後、記念聖堂の前に立つ大平さん）

広島民青、大平さんと一緒に、電話による文科省要請

食料支援の取り組みで聞いてきた声を届ける

民青広島県委員会は12月10日、食糧支援の取り組みで聞いてきた学生の切実な声をまとめ、電話で文科省要請をしました。この要請には、大平喜信前衆議院議員が同席しました。（写真）

民青広島はこの秋251人の学生から声を聞いています。その中では「一律学費の半額」にチェックしたのが116人（2人に1人）、「コロナ禍のもとで学費を負担に感じている」の項目のうち「とても感じる・少し感じる」合わせてチェックしたのが190人、76%（4人に3人）となっています。

要請では、学生たち自身も自らの実情や思いを訴え、正面から緊急支援を求めています。



大平議席奪還・政権奪取！3日間作戦(18・19・20日)の成功を